

田んぼで浸水対策 ～農家が街を守る～



田んぼで街を守り隊

田んぼで街を守り隊は、安城市内の米農家が主体となり、過去に水害が起きた河川の上流域で、田んぼに雨水を貯留することにより、水害から街を守るために活動しています。この活動がスタートしたのは、市役所から「田んぼで雨水を貯めることに協力してもらえないか。」と相談があり、「田んぼで街の水害を軽減できるなら」という思いから活動が始まりました。

当初は、田んぼに通常の水位より5cmだけ余分に雨水を貯めることに対して、稲の成長への影響などに不安もありましたが、実際には、稲への影響は全くありませんでした。雨水を貯める活動の内容は、排水桝にせき板を設置し、田んぼの水位の管理をしています。そして、田んぼから水を抜く時期には、盗難防止のためにせき板を取り外し、各自の倉庫などで、次の田植えの時期までせき板の保管をしています。この他にも、田んぼに大切な機能があることを広く市民に知ってもらうために、市役所、JAあいち中央農協と協働し、クイズイベントの開催や、ふれあい田んぼアート、県内外の自治体からの現地視察や、テレビ局の取材に対応するなど幅広い活動を行っています。

最後に、安城市では都市化の進展によって、年々農地面積が減少しています。気候変動の影響も加わり、豪雨による浸水リスクが高まっています。子供たちの未来のためにも、私たちが街を守っているという誇りを胸に、今後も活動を続けていきます。



貯留構造



せき板の管理



田んぼアート上空



田植え